

技術と機械とアイデアを繋げて

国立プレス株式会社

溶接・組み立ての板金メーカー

国立プレス株式会社は、建設機械などを設計から部品加工、溶接組立まで一貫製造する板金メーカーである。戦後の焼け野原でプレス機械を拾い、アメリカ軍基地の空き缶を伸ばして材料にし、輪出用玩具を製造していた家内工場がはじまりだ。

先代が掲げた人生に生きがい、仕事にやりがい、チャレンジこそ財産の精神は代表取締役・秋山健氏をはじめ専務取締役・秋山修氏が引き継ぎ、従業員にチャレンジを促す。



ロボットによる溶接

取引先溶接コンテスト 3年連続優勝

同社は1993年から溶接ロボットなどの機械を導入している。近年は扱う製品が大型化し、これも溶接ロボットを使用して生産する方法を検討している。複数の機械を組み合わせ、過酷な作業は機械に教え込み、安全に大量生産を目指す。

機械にノウハウを教えるのは、経験のある年配の技術者。もちろん若い人にも指導する。若い技術者は技量を学び、コンテストに挑戦してレベルアップするという環境が確立しつつある。

技術継承は技術者が従業員の4割を占める溶接部門だけでなく、その他加工部門でも行われており、数名が国家試験レベルの資格を持つ。

「これからは、現場の技量と設計などのIT技術をどう繋げるか、若い社員に教えていきたい。新しい設備は買えば手に入る。しかし、上手に使いこなすとなると難しい。製品だけでなく設備関係や事務にも使われ、無駄なく動かすにはどうしたらよいかを常日頃考えている。そういうところは人がや

らなくてはならない」

人がやるべきことは、創意工夫の部分だと秋山専務は考える。ひとつのものごとでもほかのことに繋げて考えると、膨らみと奥行きが出てくるのだそうだ。

秋山専務自身、ある日ノートパソコンを現場に持ち込み、現場での疑問を即座に図面CADで確認した際、ITと現場を繋げることで面白いことができるのではないかと感じた経験がある。

そのためにも話しやすい環境づくりを心がけ、例えば組立部門から出た部品についての改善点を部品加工部門に投げるなど、全社的



溶接組立の作業からも、お客様へ部品をより安く効率よく提供するための案が生まれる



熟練技術者の手で組み立てられた完成品の前で、秋山社長(右)と秋山専務(左)

にアイデアを出し合い、よい案を取り入れている。

夢のあるITにも挑戦

機械と機械、人と人、機械と人を組み合わせ、国立プレスは高い技術を構築し続ける。さらに今は、職人技量の仕事も機械が肩代わりできるよう、難題に挑戦していく。

創業時を振り返って秋山社長は言う。

「家内工場を手伝っていたころの夢を、いまだからこそ大事にした。品質も納期もコストも間違いないものを提供することによって世の中のために貢献しているという自負はあるが、それだけだとちよつと寂しい。それプラス、一緒にできる仲間たちを増やして、

夢のあることをやっていきたい」
これまでやってきたように、ひとつひとつ、こつこつと。

Company Profile

国立プレス 株式会社

所在地：東京都昭島市松原 2-11-2
TEL：042-541-1154 FAX：042-541-1579

担当者：専務取締役 秋山修
事業内容：建設機械部品、空調機器部品、産業機械部品の設計・開発・製造

EMIDAS会社・工場詳細情報：

<http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?29181>

※「EMIDAS工場検索」のキーワード検索「溶接組立」で検索できます。

本誌付録の「CD-ROM de バーチャル工場見学」にて、同社の工場技術動画をご紹介します！



編集部/日野星子